

1. 3. 使用材料・仕様及び許容応力度表 (木材)	F_c	基準圧縮強度
	F_t	基準引張り強度
	F_b	基準曲げ強度
	F_s	基準せん断強度
	$F_{c v}$	基準めり込み強度
	E_b	ヤング係数
1. 3. 使用材料・仕様及び許容応力度表 (鉄筋・コンクリート)	$r f c$	鉄筋の許容圧縮応力度
	$f c$	コンクリートの許容圧縮応力度
	$f t$	引張り
	$w f t$	鉄筋の許容せん断応力度
	$f s$	コンクリートの許容せん断力応力度
	$f a$	付着
1. 4. 3. 積雪荷重	β	低減用屋根勾配
	μb	屋根形状係数
1. 4. 4. 速度圧の計算	Z_b	地表面粗度区分の応じて掲げる数値
	Z_G	地表面粗度区分の応じて掲げる数値
	α	地表面粗度区分の応じて掲げる数値
	V_0	基準風速
	H	建物高さ (建物の高さ と 軒高との平均)
	G_f	が 影響係数 (地表面粗度区分の応じて掲げる数値)
	H'	H と Z_b を比べて高い方の数値
	E_r	平均風速の高さ方向の分布を表す係数
	E	告示第1454号第1に定める式の値
	q	速度圧
	K_z	告示第1454号第3の2に定める値
	Z	当該階部分の $G L$ からの高さ
	C_f	風力係数
1. 4. 5. 地震力	H	建物高さ (建物の高さ と 軒高との平均)
	Z	地震地域係数
	C_0	せん断力係数
	R_t	振動特性係数
	T	一次固有周期
2. 1. 耐力壁配置と有効壁長 L_d (令46条)	$\alpha_{i l i}$	壁倍率 \times 壁長さ
	L_d	有効壁長さ

	$\sum \alpha_i l_i$	有効壁長さ
	P_i	耐力壁の許容せん断力（令第46条の耐力壁）
2.2.1. 地震力に対する所要壁長の表	A	ロフト面積
	h	ロフト高さ
2.2.2. 風圧力に対する L_n の表	A_w	各見付面積
	$\sum A_w$	見付面積合計
2.2.3. L_d/L_n の比率の表	L_n	所要壁長
2.2.4. 偏心率の計算	G_y, G_x	重心位置
	K_y, K_x	剛心位置
	e_y, e_x	偏芯距離
	J_x	剛心 G を原点とする座標軸 x に対する、水平剛性の2次モーメント
	J_y	剛心 G を原点とする座標軸 y に対する、水平剛性の2次モーメント
	J_x+J_y	ねじりの剛性
	r_{ex}, r_{ey}	弾力半径
	R_{ex}, R_{ey}	偏芯率
2.3. 許容せん断力 P_i （令82条）と剛性の算定	$\alpha_i l_i$	壁倍率 \times 壁長さの
	L_d	各通りの耐力壁の壁長
	$\sum \alpha_i l_i$	壁倍率 \times 各壁の長さの合計
	P_i	耐力壁の許容せん断力（片スジカイを考慮した耐力壁）
2.4. 水平力（地震・風圧）に対する耐力壁の検定	W_0	各項目の重量
	W_i	各階の重量合計
	$\sum W_i$	当該階までの全重量
2.4.1. 地震力の算定	Z	地域地震係数
	C_i	i 階の地震層せん断力係数
	C_0	標準せん断力
	A_i	i 階の地震層せん断力係数の分布係数
	W_i	各階の重量
	$\sum W_i$	当該階までの全重量
	α_i	全重量に対する i 階より上の重量比
	C'_i	水平構面のせん断力係数（2002年グレー本）
	$e Q_i$	i 層に作用する地震力
	$\sum P_i$	i 層の耐力壁の耐力合計
	$e Q_i / \sum P_i$	地震時の水平力に対する建物の耐力の比
2.4.2. 風圧力の算定	q	速度圧
	$\sum C$	風上+風下 風力係数の合計値

	A_w	各見付け面積
	wQ	各部分風圧力
	wQ_i	i 階に加わる風圧力合計
	ΣQ_i	方向に加わる風圧力総合計
	ΣP_i	i 層の耐力壁の耐力合計
	$\Sigma Q_i / \Sigma P_i$	風圧力に対する建物の耐力の比
2.5. 鉛直構面の負担水平力に対する検定	I	耐力壁を支持する梁の断面2次モーメント
	E	耐力壁を支持する梁のヤング係数
	P	耐力
	K	剛性
	δ_1	1次梁たわみ
	δ_2	2次梁たわみ
	K'	剛性
	C	低減係数
5.5.2. 許容耐力と剛性	α_i	壁倍率
	l_i	壁長さ
	K_a	剛性
	C	低減係数
	K_a'	剛性
	D_i	通り剛性
	P_a	耐力
	ΣP_a	通り耐力
2.5.3. 重心の計算	Ly_i, Lx_i	距離
	W_{i0}	重量
	W_i	合計重量
	$Ly_i \cdot W_i$	1次モーメント
	Gey, Gex	重心位置 (地震)
	$\Sigma \Sigma (Ly_i \cdot W_i)$	1次モーメント総合計
	$\Sigma \Sigma W_i$	総合計重量
	Ly_i, Lx_i	距離
	C_f	風力係数
	wQ_{i0}	風圧力
	wQ_i	合計風圧力
	Gwy, Gwx	重心位置 (風)
2.5.4. 剛心の計算	D_i	剛性

	$L y i, L x i$	距離
	$D i \cdot L y i,$ $D i \cdot L x i$	耐力壁の剛性と原点からの距離の乗算
	$D i \cdot (L y i)^2,$ $D i \cdot (L x i)^2$	耐力壁の剛性と原点からの距離のべき乗算
	$\Sigma (D i \cdot L x i)$	耐力壁の剛性と原点からの距離の乗算の合計
	$\Sigma D i$	合計通り剛性
	$K e y, K e x$	剛心位置 (地震)
	$K w y, K w x$	剛心位置 (風)
2.5.5. 許容耐力の検定	αe	ねじれ補正係数 (地震)
	$D i$	剛性
	$Q e$	負担地震耐力
	$P a$	許容耐力
	$Q e / P a$	必要せん断力/設計せん断力
	αw	ねじれ補正係数 (風)
	$Q w$	負担風圧力
2.6. 水平構面の負担水平力に対する検定	L	奥行き
	$Q a$	合計許容せん断力
	l	スパン
	$\Delta Q a$	最大床倍率
	$T N 1$	外周横架材の必要引張耐力
	$T N 2$	柱頭に取り付くスジカイによる横架材の引張り力
	$T N_{max}$	$T N 1$ と $T N 2$ のどちらか大きい値
2.6.2. 水平構面の負担水平力に対する検定	$C' i$	水平構面用層せん断力係数 (2002年グレー本)
	$\Sigma P i j$	構面せん断力 (合計) (2002年グレー本)
	$\alpha i j-1$	ねじれ補正係数 (2002年グレー本)
	$W i j-1, j$	区間重量 (2002年グレー本)
	$\alpha i j$	ねじれ補正係数 (2002年グレー本)
	$\Sigma V i j$	合計負担地震力
	$C \alpha$	調整係数 (2002年グレー本)
	$Q E i j$	負担地震力
	$V i j$	負担地震力
	αe	ねじれ補正係数 (地震)
	$W i j$	鉛直構面重量 (2002年グレー本)
	$P i j$	鉛直構面せん断力 (2002年グレー本)
	$Q a$	水平構面設計せん断力 (2002年グレー本)
	$Q i$	水平構面端部せん断力 (2002年グレー本)

	$Q E i W$	負担風圧力
	$V i j$	負担風圧力
	αw	ねじれ補正係数（風）
3.1.2. 鉛直荷重	$P 0$	各部 軸力
	$P i j$	階軸力合計
	ΣP	総軸力合計
3.2. 柱の設計	$N l$	軸力
	$N s$	短期軸力
	$M s$	軸力+曲げ
3.2.2. 柱の設計（個別）	$L k$	階高
	A	断面積
	Z	断面係数
	i	断面2次半径
	λ	細長比
	ω	座屈係数
	$F c$	柱の基準圧縮強度
	$F b$	柱の基準曲げ強度
	$F c v$	土台の基準めり込み強度
	$A e$	有効接地面積（めり込み検定に使用）
	$N 0$	鉛直軸力(3.1.2(2)「柱の鉛直軸力一覧」にて算出)
	$N 1$	地震時の軸力(3.1.1「耐力壁の応力」にて算出)
	$N 2 x、N 2 y$	風圧時の軸力(3.1.1「耐力壁の応力」にて算出)
	$\omega 1$	風力圧（風上）
	$\omega 2$	風力圧（風下X）
	$\omega 3$	風力圧（風下Y）
	q	速度圧(1.4.4「速度圧の計算」にて算出)
	C	風力係数
	l	風圧を受ける壁の長さ
	$M s 1$	風上側最大モーメント
	$M s 2$	風下側X方向最大モーメント
	$M s 3$	風下側Y方向最大モーメント
	N	柱の軸力
	$f c$	柱の圧縮許容応力度
	$f c v$	土台のめり込み許容応力度
	$f k$	柱の座屈許容応力度

3.3. 梁・桁・胴差の設計	Z	断面積係数
	A	断面積
	I	断面2次モーメント
	ω	床荷重
	P2	集中加重
	Cf	部材寸法調整係数
	I0	断面2次モーメント
	Z0	断面係数
	Ae0	断面積
	Ae	有効断面積（低減係数反映）
	Fb	基準曲げ強度
	Fs	基準せん断力強度
	Eb	ヤング係数
	Mmax	最大曲げモーメント
	Md2	集中荷重の加力点の曲げモーメント
	QL	左端部せん断力
	QR	右端部せん断力
	δ	たわみ量
	δ'	クリープたわみ量
	fb	曲げ許容応力度
	fs	せん断許容応力度
3.4. たる木・母屋・根太・他の設計	L	スパン
	w	負担幅
	$\omega g0$	固定荷重
	$\omega p0$	積載荷重
	A	断面積
	Z	断面積係数
	I	断面2次モーメント
	Fb	曲げ
	Fs	せん断力
	Eb	ヤング係数
	E	告示第1454号第1の値
	q	速度圧
	C	風力係数
	ωg	固定荷重

	ωp	積載荷重
	ωw	風圧荷重
	$l \omega s$	長期積雪荷重
	$s \omega s$	短期積雪荷重
	$f b$	曲げ許容応力度
	$f s$	せん断許容応力度
	ω	設計荷重
	M	曲げモーメント
	Q	せん断力
	σ	曲げ応力度
	τ	せん断応力度
	δ	たわみ量
3.5. 接合部の設計	TN	引き抜き力
	N	耐力壁間の押えに有効な長期軸力の合計
	$V s w$	風圧力による耐力壁の回転によりおきる軸力の合計
	$V s k$	地震力による耐力壁の回転によりおきる軸力の合計
	$B i$	浮上がりに対して建物全体が押さえ込む効果を考慮した係数
3.6. 基礎の設計	ΣW	建物総重量
	$W1$	1階床重量
	$f e$	地盤支持力
	A	基礎版面積
	$W t$	基礎立上り部重量
	$W s$	スラブ重量
	WL	積載荷重
	t	底版厚
	$d t$	かぶり厚
	n	安全率
	$\omega 0$	支持力 算定用分布荷重
	$\omega 1$	スラブ配筋 算定用分布荷重
	$\omega 2$	地中梁配筋 算定用分布荷重
	$l x$	短辺
	$l y$	長辺
	$d x、d y$	底盤上(下)面から下(上)端筋までの寸法
	$j x、j y$	曲げモーメントに抵抗する底盤の応力算定用の距離
	ωx	短辺方向の計算に用いる接地圧

	$M_x 2, M_y 2$	固定端部モーメント ($M_x 2$: 短辺方向 $M_y 2$: 長辺方向)
	$a t$	鉄筋断面積
	l	鉄筋間距離
	$a t_{max}$	鉄筋断面積
3.6.3地中梁の設計	$L f t$	鉄筋・コンクリートの長期引張応力度
	$S f t$	鉄筋・コンクリートの短期引張応力度
	ω	接地圧
	$L 1$	スパン
	D	梁せい
	b	梁幅
	$d t$	かぶり厚
	d'	$D-dt$ (梁せいーかぶり厚)
	j	曲げモーメントに抵抗する基礎梁の応力中心間距離
	A	有効コンクリート面積
	$M L$	長期荷重時における曲げモーメント(中央部)
	$Q L$	長期荷重時におけるせん断力(端部)
	$a t$	上端部必要 鉄筋断面積
	τ	単位面積当たりのせん断応力 (Q/A)
3.7.1. 転倒の検討	$M 0$	転倒の検討
	Σw	全重量 (建物総重量+転倒基礎重量)
	L	X、Y方向の建物長さ
3.7.2. 層間変形角 (令109条の2の2)	$\gamma s i$	層間変形角の逆数
	$h i$	構造階高
	δi	辺位
	$Q i$	当該階 (又は壁) に作用する水平力
	$P i$	当該階の耐力壁の許容耐力
3.9. 土台アンカーボルトの設計	L	土台材厚
	$F c$	基準圧縮強度
	d	アンカーボルト径
	F	鋼材の基準圧縮強度
	$M y$	ボルトの曲げ降伏モーメント
	C	接合形式とその破壊形状によって決まる係数
	q	$C \times F_c \times d \times l$ 式で求まる基準強度
	$P a$	アンカーボルトの短期許容応力度